

## 平成 27 年度 第 229 回教育研究審議会議事要録

**日 時** 平成 27 年 6 月 23 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 20  
**場 所** 北方キャンパス本館 E701 会議室  
**出席者** 近藤学長、松尾副学長、梶原副学長、漆原副学長、柳井副学長、江本事務局長、大平外国語学部長、前田経済学部長、田中文学部長、二宮法学部長、眞鍋地域創生学群長、龍国際環境工学部長、中尾基盤教育センター長、田村慶社会システム研究科長、王マネジメント研究科長、小野学生部長、田村大教務部長、田島入試広報センター長、佐藤情報総合センター長、日高地域貢献室副室長、後藤評価室副室長

**配布資料**

- 1-1 欠員補充申請書 (国際環境工学部)
- 1-2 教育職員の休職 (期間更新) について
- 1-3 教員の異動に係る組織人事委員会審議結果/教員採用申請書 (環境技術研究所)
- 1-4 環境技術研究所教員 ロボットに関連する電子情報通信分野 選考委員会 (変更案)
- 2 特任教員の選考について
- 3 再任審査委員会の設置について
- 4-1 「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」の申請について
- 4-2 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+) 計画調書
- 4-3 申請大学におけるカリキュラム改革に関する要件等について (参考資料)
- 5 休学及び退学除籍者数の推移について
- 6 平成28年度 (2016年度) 入学試験の主な変更点
- 7 平成27年度特別研究推進費交付採択研究一覧 (テーマ別)
- 8 「第3回アジア未来会議」論文等の募集について
- 9 北九州市立大学教員海外出張・研修報告書

### 第 1 号 教員の人事について

\* 資料1-1のとおり、国際環境工学部からの申請に基づき、平成27年3月31日付けで退職した黒木荘一郎教授の後任として、建築設計 (計画・意匠) または建築環境工学 (音響及び光環境) 担当教員1名の欠員補充について提案。

- 黒木教授の担当分野は建築設計 (計画・意匠) 及び建築環境工学 (熱、音響及び光環境) であったが、欠員補充する職の担当分野は、建築設計 (計画・意匠) または建築環境工学 (音響及び光環境) としたい。
- 担当分野については、建築設計または建築環境工学となっているが、担当科目には両分野の科目が記載されている。担当分野と担当科目との間で齟齬があるのではないか。
- 前任者は、両分野を専門とし、多くの学術論文を発表している。しかし、両分野を専門とする教員は限られている。そのため、どちらかの分野を専門とする教員であれば、研究レベルでは難しいとしても、両分野の科目を担当することは可能である。今回の欠員補充では、学部・大学院の授業科目を両分野担当でき、いずれかの分野を専門とする教員を採用するものである。

【議長】 提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

(議案承認の後、選考委員会を設置)

\* 資料 1-2 のとおり、教員の休職 (期間更新) について提案。

【議長】 提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

\* 資料1-3のとおり、国際環境工学部から環境技術研究所への教員定数1名の異動、同研究所のロボット及び自動車の知能化（「認識」、「判断」）に関する電子情報通信分野（特に人工知能、機械学習）担当教員1名の採用申請について提案。

- 平成27年6月9日に開催した第12回組織人事委員会において、平成29年3月末に退職予定の国際環境工学部情報メディア工学科 鈴木五郎教授の後任ポストを環境技術研究所に異動させるとともに、その後任を1年前倒して採用することについて、関係部局長の出席のもと審議を行った。各部局の了解が得られていること、担当科目についての調整がなされており教育面での支障がないこと、社会のニーズに合った先進的な研究・開発を進めていくことは本学に必要な不可欠であることを確認し、情報メディア工学科から環境技術研究所への定員1名の異動について承認いただいたうえで、教育研究審議会に提案することとしたものである。
- 採用申請書は、環境技術研究所専任教員としてロボット及び自動車の知能化に関する電子情報通信分野担当教員1名の採用をお願いするものである。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（議案承認の後、選考委員会を設置）

\* 資料1-4のとおり、環境技術研究所からロボットに関連する電子情報通信分野担当教員の採用にかかる選考委員会委員の変更について提案。

- 第226回教育研究審議会（平成27年4月28日開催）で設置した選考委員会の委員のうち1名について、諸般の事情により変更したい。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 第2号 特任教員の選考について

\* 資料2のとおり、環境技術研究所の特任教員1名の選考について提案。

- 知的財産管理・産学官連携コーディネートの担当として、平成27年8月1日から平成28年3月31日までの任期で選考するもの。選考候補者は新規での採用である。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 第3号 再任審査委員会の設置について

\* 資料3のとおり、平成28年3月31日付けで任期満了となる任期制教員のうち、再任申請のあった4名（基盤教育センター1名、国際環境工学部3名）の審査を行うため、再任審査委員会の設置について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 第4号 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」の申請について

\* 資料4-1～4-3のとおり、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」の申請について提案。

- 文部科学省が地方創生の観点から本年度新たに公募する補助事業「地（知）の拠点大学による地方

創生推進事業（COCプラス）」に申請することとしたい。北九州市と下関市を事業対象地域とし、地域への人口定着、地元就職、雇用創出を目的に、両市の大学、自治体、商工団体等が参画する。

- 本学では、地域戦略研究所を開設するとともに、基盤教育科目への地域志向科目群の新設などを行う。地域全体での取り組みでは、産学官が連携したインターンシップや企業ガイダンス等のほか、都心部での就職相談や雇用創出等を目的としたスペース開設などを通じ、学生の地元定着を推進する。
- 新設する地域科目に関し、受講を希望する学生ニーズに沿った科目の配置及びグループワークなどを苦手とする一部学生への配慮をお願いしたい。
- 科目配置を含め、多様な学生が履修しやすい内容となるよう調整を進めたい。
- まなびとESDステーション（大学間連携共同教育推進事業）では、現在、補助期間（～平成28年度）終了後の事業継続等について検討を進めている。センターでは、近年、雇用をテーマとする活動にも取り組んでおり、今後、調整、連携をお願いしたい。また、これまでのESDでの活動を通じ、「まなびと」という名称が定着しており、COCプラス事業で似たような名称を使用した場合、混乱が生じるのではないかと懸念している。
- ESDの取り組みとの連携に関しては歓迎したい。名称については、現行案で申請させていただきたい。
- 北九州市観光協会との連携のもと開講している「北九州市の観光振興」を地域科目に移動するとあるが、同協会とは教養特講のままとすることで調整した経緯がある。
- 同科目については、現行のものより幅広く地域の魅力について知識を深めるものであり、恒常的な科目として今後調整したい。
- 学生の地域への定着については、各学部の状況も配慮していただきたい。なお、地域就職率に関する指標において、対象となる地域はどこになるのか。
- 対象地域は、北九州市及び下関市の両市内としている。学内各学部はもとより事業参画13大学等の特性にも配慮しつつ、地域全体として地域就職率の10%の向上を目指していく。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

## 報告

- ① 2014年度休退学者数について、資料5のとおり報告があった。
- ② 平成28・29年度入試の主な変更点について、資料6のとおり報告があった。
- ③ 特別研究推進費の採択について、資料7のとおり報告があった。
- ④ 「第3回アジア未来会議」論文等の募集について、資料8のとおり報告があった。
- ⑤ 教員の海外出張について、資料9のとおり報告があった。
- ⑥ 次回の審議会を7月14日（火）に開催する予定である旨、報告があった。